

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 26, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2020



恐怖の外来種 クビアカツヤカミキリ

写真: KPM-NKA 30224-30228※
大阪府堺市
2018年7月14日 渡辺 恭平 撮影

わたなべ きょうへい
渡辺 恭平 (学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した
6桁の数字で表記されます

クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* は国外外来種の中でも、とびきり恐ろしい昆虫です。このカミキリムシは中国や朝鮮半島などが原産で、サクラ、ウメ、モモなどの樹木を猛烈な勢いで食害し、枯死させてしまいます。その被害の大きさから、環境省により特定外来生物に指定されており、様々な対策が行われています。神奈川県には公園や河川敷にサクラが多数植栽されているほか、観光や食用のために、ウメが県西部を中心に栽培されています。この虫はこれらの環境や産業を破壊する恐れがありますが、本県では

幸いなことに被害がまだ発生していないので、十分に危機感が共有されていません。

写真は被害の視察で訪れた大阪府の公園で撮影したもので、体長4 cm近いカミキリムシがサクラの幹を歩き回る異様な光景が見られました(図1, 2)。激しく木くずをまき散らすので、被害木はすぐにわかります(図3, 4)。駆除のためのネットが巻いてありますが(図2~5)、隙間から逃げ出した個体も多く(図2)、加害による枯死木(図5)も目立ちました。

もしも県内で本種を見つけた際は、速やかに博物館までご連絡ください。